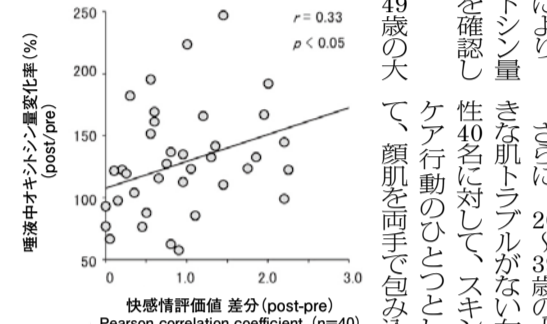


# 花 王 唾液中のオキシトシン量と肌の質感との関連性を確認

花王感性科学研究所、スキンケア研究所、メイクアップ研究所は、快感を喚起する刺激に着目したスキンケア研究を行う中、「快感を喚起する刺激により、唾液中のオキシトシン量が増加すること」「唾液中のオキシトシン量が多いほど、肌の質感スコア(見た目の肌状態)が高いこと」を見出した。

オキシトシンは、脳の奥に及ぼす影響を検討し、視床下部で合成されるホルモンのひとつで、スキップを積極的に促すことが報告されている。チークブラシを用いて速さ(約3cm/秒)、荷重(約20g)で前腕伸側部を無痛で刺激し、1日2回(朝と晩、3分間/回)、4週間継続してもらい、肌の質感スコア(見た目の肌状態)を、一定の評価基準で客観的に目視評価の



まずはじめに、20〜49歳の大きな肌トラブルがない女性33名を対象に、快感を喚起する刺激による生理変化が肌状態(肌の質感スコア)に与える影響を評価した。

日本には多種多様な美容器具が売られている。ダイエレクト系、マッサージ系、スキンケア系、マッサー系が主体であり、マッサー系はコンパクトに見てもかわいらしい商材が増えてきた。ビジュアルにこだわった器具はギフトにも喜ばれる一方で、母

## 対話

肌状態は、肌の質感スコア(見た目の肌状態)が高くなるほど、肌の質感スコア(見た目の肌状態)が高くなる。肌の質感スコア(見た目の肌状態)が高くなるほど、肌の質感スコア(見た目の肌状態)が高くなる。

40Hz〜100Hzの周波数でゆっくりとリズムが変化するモードと、同じ周波数でよりゆっくり変化するモードのどちらかを選ぶ。頭のカーブにそって、カスターマイズが楽しめるよう、デコレーションの予感がある。(小)

## 私のH&B日記

その名の通り宇宙人(エイリラン)の姿をしている。ピンクとブ

トレーニングをした専門家に、肌の質感を7段階で評価してもらった結果、唾液中のオキシトシン量と肌の質感スコア(キメの整い感、色むら、つや、肌表面のなめらかさ)と、弱い正の相関を示した。

さらに、20〜39歳の大きな肌トラブルがない女性40名に対して、スキンケア行動のひとつとして、顔を両手で包み込

## 加齢に伴う真皮エラスチン線維の

### 変性メカニズムを解明

コーセーは、星薬科大学組織再生学研究室輪千浩史教授との共同研究により、加齢に伴う真皮エラスチン線維の変性は、小胞体シヤペロンB i P産生量の減少によるフィブリリンの形状変化が原因であることを明らかにし、フィブリリンのクオリティを向上させることが、加齢による真皮エラスチン線維の変性を改善し、皮膚のハリ弾力向上へつながることを見出した。

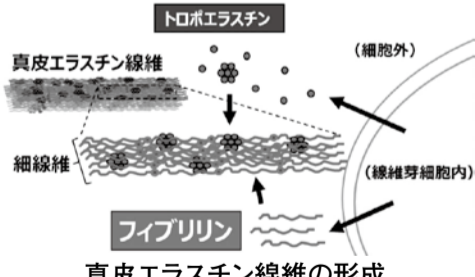
真皮エラスチン線維は、細胞から分泌されたフィブリリンと呼ばれるタンパク質からなる細線維上にトロポエラスチンと呼ばれる球状のタンパク質が沈着・架橋して形成されるもので、それが

加齢や紫外線による変性は、生じるといわれている。すると、シワやたるみがこうした中、光老化に伴

むように(ハンドプレス)してもらった。その結果、対して、弱い正の相関による快感の喚起度を示した。

つまり、一連の実験により、肌の質感スコアが増加し、肌の質感向上する

う皮膚症状のメカニズムについては、紫外線照射によるモデル実験を用いた報告が多くなされている。対して、加齢に伴う自然老化のメカニズムについては、細胞での再



真真皮エラスチン線維の形成

今回、同一人物由来の加齢モデル細胞系列のうち、若齢細胞(62歳)と若齢細胞(36歳)を用いてフィブリリンの線維形成を比較したところ、若齢細胞では部分的に凝集し、不均一なフィブリリン線維構造が確認された。また、細胞が作

物由来の加齢モデル細胞系列を用いて、加齢に伴うフィブリリンの形状変化を見出し、そのメカニズムの解明に向けて検討

今回開発された「グロス染料」は、髪へのダメージや頭皮への刺激が少なく、大幅にアレルギーリスクを低減でき、さらに美しい発色も実現するという既存染料の優れた特長を併せ持つこれまでの新しい染料であり、アレルギー・過酸化水素フリーでダメージレス・低臭・低刺激のカラーリングが可能という。

## 資生堂

資生堂は、東北工業大学との共同研究により、超高感度冷却CCD (Charge Coupled Device) カメラによる測定技術を用いることで、肌を傷つけることなく直接、紫外線による肌の酸化ダメージの防止効果を可視化することに成功した。これにより、サンスクリーンの効果を視覚的に示すことができるようになった。今後、同技術をサンスクリーンをはじめとするスキンケア製品開発へ広く応用していく。

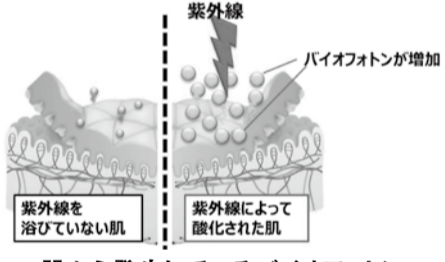
一部の紫外線を照射し、肌の酸化ダメージを比較した結果、サンスクリーンの使用部分では、明らかに紫外線による肌の酸化ダメージを防止できることを今回初めて可視化した。このようにサンスクリー

## 紫外線による肌ダメージのUV製剤の防止効果を可視化

オフトンと呼ばれる超高度冷却CCDカメラを用いた測定技術を用いることで、バイオフォンの撮影や肌の酸化ダメージの高精度での可視化を試みた。

サンスクリーンを使用しているが、非常に弱い光のため可視化することが困難だった。

そのため、肌の酸化ダメージの評価は、肌から採取した角層サンプル



肌から発生しているバイオフォトン

## 日華化学

### アレルギーリスク大幅減で艶やかな発色の染料を開発

日華化学は、従来のヘアカラー用染料とは異なる世界初の新しい染料の開発に成功し、2018年1月に染料に関する特許を出願した。同社のヘア染料「名付け、今後、製品開発を推進していく。

「グロス染料」は、日華化学の界面科学・高分子化学を中心とするサイエンス技術と、ヘアサイエンス技術と、ヘア化粧品ブランドとして、ヘアカラー用の染料に主に、アルカリ染料に含まれる「酸化染料」、ヘアマニキュアに含まれる「酸性染料」、カラートリートメントに

現在、ヘアカラー用の染料に主に、アルカリ染料に含まれる「酸化染料」、ヘアマニキュアに含まれる「酸性染料」、カラートリートメントに含まれる「酸性染料」を少なくすると染毛力が弱まる傾向にあった。

また、この「グロス染料」は髪へのダメージや頭皮への刺激が大きくない特徴を有しており、髪に自然なツヤを表現できるという。